

るものなりざるべからず。

○茶は我國民の上下一般に用ふるものなれど、之も量過ぐれば心臟の鼓動を激しくし胃の消化作用を害するものなり、品質の上等なる程此害殊に甚しとす。

○唯番茶のみはその憂少しもなし、凡ての刺激物に對して十分保護を與ふべき小供の飲料としては此無害なる番茶など適當のものなるべし。

○麥湯亦無害にして殊に宜し、先づ頃北清の戰役に從事せし我軍隊に之を採用し居たるを見て、久しく良好の飲用品なきに苦心中なりし歐米各國の軍隊は、競ひて麥湯を飲用するに至りしといふ、始めての人には一寸嗜まれぬ向もあれど砂糖など加ふればなかなかよろし。

子供の爲に殊に注意すべきは、晝の眞中、さて

は劇しき運動をなしたる後などなり、斯かる場合には前後も辨へず飲むものなればなり、如何に良好の飲料なりとて度を過せば之亦益なきのみならず害あるものなることを忘るべからず。

蜻蛉や何の味ある竿の先

今昔いろいろは料理 (ほ)

石井泰次郎

法録煎餅の拵方

米の粉 一升 せめのこ 十四匁

もち米の粉 三合 さたう 十四匁

右を水にてこね合せて、蒸籠にてむして、形状は好次第に切りて、日にからりと乾して、其後焙爐にてはしやげてつかふべし、又薄くのばして花形のもやうなるやきがたにてせんべいの如くやきて

もよし

ほんぼりみる喰の拵やう

みるくひ貝よく湯煮して布にて包みて、上より打てもみほぐし、ふくめたるなふくめといふの様になる、又口の赤みの所はほぐれず、其所はずぬぶん細にたゝきて右のふくめの内へませてよし

ほし海扇つかひやう

ほしたるほたて貝は指にて極めてはそくさきて水にひたしおき柔らかくなりたるを、水より取上て酢醬油にて味をつけて、又味噌の煮返したるをも少しくはへてもちいてよし

穂蓼つけやう

八月頃よき時分、桶に鹽を少しぬり穂蓼を次第にならべて少づゝ鹽をふり、おもしろしをかけ、一とさばかりすぎで、めしのとり湯一升到鹽五合ほどかき

ませてひたしくになるほど入ておもしろかけておきてつかふとき洗ひて出すべし

看護法 (承前)

醫學士 長瀬復三郎

斯ふ云ふ疾病に罹つた子供を見た時は必ず先き御話をした胸圍、頭圍等を計つて見ねばならぬです。一寸見た模様病氣に罹つて居る外見上、ドウ云ふものであると云ふに子供に病氣があると云ふ事について子供が機嫌が悪ひと云ふ事は一番に見た所で氣の付く事で、健康なる子供であれば、實に爽快な顔をして天真爛熳と云ふ有様で能く遊びもなし、アヤせばよく笑ふと云ふ工合でありませす、又光線音響とかさう云ふものに向つて、或は見ずしらずの人に對しての感覺が病時の如く